



雅俗兜岩雜記



ル 4
1130



魏氏宗譜記

門八呂4
第1130
卷



雅海境名新記



此地如形故早一四圍一管心一みくし中
東西凡七八里南北五二里ほほのるこま地
こま中央を流すよふのこま中を流すよふ
こまに風出たる國うら山嶺を地をれおのり
変節をこま寒暑流るふまふと洞は甲府よ
まを流すよふこま又ま流るよふと股列者
暖海よりこまこま又ま流るよふと股列者
北地の中世武田氏より代りて流るよふと
人念ふよふこまこま十幸流るよふと

奥の外の山を登るとわの川多ののちをゆくはじかき
とくそくくふの如きた敷とすりり、ちか目心新来の配
おきり人見ふかり、娼家のち柳河を河月ふおとあし
あさる、おの多作の序を風さやあさる、先を流
得るおあまおとあまおとあまおとあまおとあまおと
し、おとあまおとあまおとあまおとあまおとあまおと
とくそくくふの如きた敷とすりり、ちか目心新来の配
おきり人見ふかり、娼家のち柳河を河月ふおとあし
あさる、おの多作の序を風さやあさる、先を流
得るおあまおとあまおとあまおとあまおとあまおと
し、おとあまおとあまおとあまおとあまおとあまおと

とくそくくふの如きた敷とすりり、ちか目心新来の配
おきり人見ふかり、娼家のち柳河を河月ふおとあし
あさる、おの多作の序を風さやあさる、先を流
得るおあまおとあまおとあまおとあまおとあまおと
し、おとあまおとあまおとあまおとあまおとあまおと
とくそくくふの如きた敷とすりり、ちか目心新来の配
おきり人見ふかり、娼家のち柳河を河月ふおとあし
あさる、おの多作の序を風さやあさる、先を流
得るおあまおとあまおとあまおとあまおとあまおと
し、おとあまおとあまおとあまおとあまおとあまおと

六友たうきうしんか
け地うくくしんか
やうじんか
ゆきんか
け炭燐まを
唐の

柳子路と後、有む歩く如箱と如かん如座まの
化業うくふまの座まの座まの座まの座まの座まの
如ちん如り如そのまの如の如月如の如多たの如
り如の如の如の如の如の如の如の如の如の如の如
ふう如如人冠の如の如の如の如の如の如の如の如
しん如車地車とる如の如の如の如の如の如の如の如
かの如の如の如の如の如の如の如の如の如の如の如
書画如の如の如の如の如の如の如の如の如の如の如
らまの如の如の如の如の如の如の如の如の如の如の如
とくの如の如の如の如の如の如の如の如の如の如の如

良材いん志
法嶺の如の
何如の如の
友吃火の如の
一如の如の
了大の如の
と云

く如の如の如の如の如の如の如の如の如の如の如
如の如の如の如の如の如の如の如の如の如の如の如
おくとく如の如の如の如の如の如の如の如の如の如の如
節如の如の如の如の如の如の如の如の如の如の如の如
竹如の如の如の如の如の如の如の如の如の如の如の如
まの如の如の如の如の如の如の如の如の如の如の如の如
此國如の如の如の如の如の如の如の如の如の如の如の如
能如の如の如の如の如の如の如の如の如の如の如の如
くは入る如の如の如の如の如の如の如の如の如の如の如
砂如の如の如の如の如の如の如の如の如の如の如の如

少々の事なりと云ふ。好くも云ふ。此は輝輝也。少々の事なりと云ふ。
是の事なりと云ふ。好くも云ふ。此は輝輝也。少々の事なりと云ふ。
多けしむ。此の事なりと云ふ。好くも云ふ。此は輝輝也。少々の事なりと云ふ。
殊る所。此の事なりと云ふ。好くも云ふ。此は輝輝也。少々の事なりと云ふ。
物越然。此の事なりと云ふ。好くも云ふ。此は輝輝也。少々の事なりと云ふ。
物あり。此の事なりと云ふ。好くも云ふ。此は輝輝也。少々の事なりと云ふ。

心鳥 多分。此の事なりと云ふ。好くも云ふ。此は輝輝也。少々の事なりと云ふ。
醍柿 此の事なりと云ふ。好くも云ふ。此は輝輝也。少々の事なりと云ふ。

柳海 此の事なりと云ふ。好くも云ふ。此は輝輝也。少々の事なりと云ふ。
葡萄膏 此の事なりと云ふ。好くも云ふ。此は輝輝也。少々の事なりと云ふ。

田舎光 此の事なりと云ふ。好くも云ふ。此は輝輝也。少々の事なりと云ふ。

此の事なりと云ふ。好くも云ふ。此は輝輝也。少々の事なりと云ふ。

心解 此の事なりと云ふ。好くも云ふ。此は輝輝也。少々の事なりと云ふ。
醍柿 此の事なりと云ふ。好くも云ふ。此は輝輝也。少々の事なりと云ふ。

産物 此の事なりと云ふ。好くも云ふ。此は輝輝也。少々の事なりと云ふ。

醍柿 此の事なりと云ふ。好くも云ふ。此は輝輝也。少々の事なりと云ふ。

醍柿 此の事なりと云ふ。好くも云ふ。此は輝輝也。少々の事なりと云ふ。

醍柿 此の事なりと云ふ。好くも云ふ。此は輝輝也。少々の事なりと云ふ。

醍柿 此の事なりと云ふ。好くも云ふ。此は輝輝也。少々の事なりと云ふ。

醍柿 此の事なりと云ふ。好くも云ふ。此は輝輝也。少々の事なりと云ふ。

醍柿 此の事なりと云ふ。好くも云ふ。此は輝輝也。少々の事なりと云ふ。

醍柿 此の事なりと云ふ。好くも云ふ。此は輝輝也。少々の事なりと云ふ。

猪田倉水田とわつし、神宮寺とと挽舟に
神宮地甲地ノ控現とありて是こととありて六月
朔日より廿七日と清人の清人ノ一尊寺何一同寺
境内ノ庄折給有とありて傳とありて古昔清城寺折言
也論水田給ありて清城寺長政寺と云ふなり
遷寺なり河内ノ法相と云ふ蘭寺は又櫻田田給
ありて是とありて是とありて勢法寺水俣寺現に伊勢
水田所寺福寺とありて傳とありて是とありて
大蔵寺とけりありて是とありて是とありて境内ノ庄折
は是とありて是とありて是とありて是とありて

^{庄折}給あり給ありと折一團中一尊と云ふは是とありて
安永四月より廿七日と境内清人ノ一尊寺とありて是とありて
出とありて是とありてけり同寺水田寺とありて是とありて
とありて是とありて又元徳寺何水田寺とありて是とありて
昔洞流水田寺とありて庄折御堂田所流寺後之寺
西面也

清城寺水田寺法相寺とありて是とありて是とありて
西田信虎信玄徳寺水田寺とありて是とありて是とありて
伊予寺とありて是とありて是とありて是とありて是とありて
つとありて是とありて是とありて是とありて是とありて

新く見ると
いふやうに
てはこれ見
るに、
下野の
いふやうに
流しと
山國と
又

出れ、
あまの
流し
と

序
所
軍
志
多
つ

寺
軍
所

石
津
道
心
心
心
心

巨勢の
及伊予小野
神社あり

たひぬのやちいぬ

くわらととくはくふいふよらねのまことのみよ
いけのあつるしとく

序申の言よくくふ明神の言

名ふふ城守ふのなむたえき同あつあつひむのふ社
ふふのあつるしとく

くわらととくはくふいふよらねのまことのみよ
くわらととくはくふいふよらねのまことのみよ

あつるしとくはくふいふよらねのまことのみよ
あつるしとくはくふいふよらねのまことのみよ

むねのあつるしとくはくふいふよらねのまことのみよ

津路のよき葉のあつるし

くわらととくはくふいふよらねのまことのみよ
くわらととくはくふいふよらねのまことのみよ

あつるしとくはくふいふよらねのまことのみよ
あつるしとくはくふいふよらねのまことのみよ

あつるしとくはくふいふよらねのまことのみよ

あつるしとくはくふいふよらねのまことのみよ
あつるしとくはくふいふよらねのまことのみよ

あつるしとくはくふいふよらねのまことのみよ
あつるしとくはくふいふよらねのまことのみよ

けは花は久むれとて葉射干わらう

葉射干の葉を流すはらうとて葉はのほけはよのけは
ふゆのりさきほけはたふからけはのり見はよのけは
けはのりさきほけはたふからけはのり見はよのけは

八月十五夜月ふちのき

八月十五夜月ふちのき
八月十五夜月ふちのき
八月十五夜月ふちのき

八月十五夜月ふちのき
八月十五夜月ふちのき
八月十五夜月ふちのき

秋の夕暮

秋の夕暮
秋の夕暮
秋の夕暮

秋の夕暮
秋の夕暮
秋の夕暮

秋の夕暮
秋の夕暮
秋の夕暮

Handwritten text in a cursive script, likely a signature or a short passage, located at the top of the right page.

Multiple lines of faint, handwritten text within a blue-lined grid on the right page, possibly bleed-through from the reverse side.



Small handwritten mark or character on the left page.

Handwritten characters at the bottom of the left page, possibly a date or a name.





